

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3261	担当課等	観光課							
事務事業名	外国人向け情報発信促進事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	平成 28 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P37 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(6) おもてなしの向上	③ 国際観光地に向けた外国人観光誘客活動				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
	○								
目的	ラグビーワールドカップ2019、オリンピック・パラリンピック2020を契機と捉え、来日する欧米人の湯河原町への誘客を促進し、機運醸成を図る。 第一段階として、日本との関係が深く、欧米人の感覚も共有する日系人をターゲットとし、インバウンド促進を図る。								
対象	インバウンド観光客								
内容	海外向けプロモーションを実施しながら、日系外国人が来訪する仕組みづくりを検討していく。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)	
コスト	事業費	5,197,346	795,916	100,000	
	人件費	364,150	366,400	371,200	
	非常勤職員等				
	人件費合計	364,150	366,400	371,200	
	総事業費	5,561,496	1,162,316	471,200	
財源内訳	国庫支出金		397,958		
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	5,561,496	764,358	471,200	
財源合計	5,561,496	1,162,316	471,200		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
来訪者誘致の実施		回	1	1	1
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)	対前年比3%増	人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	平成28,29年度に実施した、トップセールスを契機に、海外向けプロモーションを実施しながら、日系外国人が来訪する仕組みづくりを町が実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	報告会の開催などにより、観光事業者との情報共有が図られ、インバウンドの機運醸成につながっており、費用に見合った効果が得られている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	確実な、話題性によるメディア露出、報告会の開催による、町内観光事業者との情報共有により、インバウンドの機運醸成につながっている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	受益の機会が均等である。

平成30年度までの自己評価または改善点	土肥実平を観光資源とした「SANEHIRA漫画プロジェクト」による歴史漫画「ピャクシン」の発行
---------------------	---

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	9	既に委託で実施済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	日系外国人が来訪する仕組みづくりを検討していく。 (平成28・29年度は、日系人をターゲットとし、至近に位置するハワイにてトップセールスを実施)	
令和2年度以降の方向性	日系人をターゲットとして、継続して実施することにより、他地域との特色を明確にし、日系人コミュニティへの信頼性を構築していきたい。	

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	誘客が期待できる事業であるため、継続して実施していくこと。
------	----------	-------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3238	担当課等	観光課							
事務事業名	観光親善交流事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	平成 28 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P36 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(4) 観光情報発信の活性化、観光宣伝の強化	① 観光イベント・施設情報の提供				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	文化交流都市提携をしている豊島区との交流や、全国梅サミット協議会加盟市町である青梅市と相互交流を実施することにより、親善交流を推進するもの。								
対象	豊島区・青梅市・越生町・あきる野市								
内容	豊島区及び青梅市の観光キャラバン・物産展に参加する。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	504,000	579,000	250,000		
	人件費	364,150	366,400	371,200		
	非常勤職員等					
	人件費合計	364,150	366,400	371,200		
	総事業費	868,150	945,400	621,200		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	868,150	945,400	621,200		
	財源合計	868,150	945,400	621,200		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
物産展等への参加		親善交流の推進	回	4	4	4
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
宿泊助成人数		親善交流の推進	人	18	43	0

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	観光客数が低迷している現状を踏まえ、町が積極的に親善都市や全国梅サミット加盟市町と文化や観光面での交流を活発化する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4	豊島区、青梅市とは、文化、観光面で相互交流促進されている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	観光キャラバンの実施や美術館の文化交流などにより、来訪者が増加することもあるため、一定の成果があると考えられる。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	受益の機会は均等である。

平成30年度までの自己評価または改善点	豊島区・青梅市・越生町・あきる野市でのキャラバンの実施や物産展への参加、また各区市町民の湯河原温泉への宿泊助成を行った。
---------------------	--

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 町が親善交流等を締結しているため。物産展の参加については、すでに委託して実施。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	豊島区、青梅市、圏央道沿線において、観光PRを実施。 豊島区民、青梅市民、越生町民、あきる野市民を対象とした宿泊助成については、(株)湯河原総合情報センターの廃業により廃止。
令和2年度以降の方向性	豊島区及び青梅市以外の全国梅サミット協議会加盟市町、圏央道沿線市町に対し観光親善交流の展開を検討。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	誘客を期待できる事業であるため、継続して実施していくこと。
------	----------	-------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価		
------	--	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3234	担当課等	観光課							
事務事業名	インバウンド情報発信事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	平成 27 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P37 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(6) おもてなしの向上	③ 国際観光地に向けた外国人観光誘客活動				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	湯河原町を訪れる外国人観光客に対するホスピタリティ等の向上を図るため、外国語パンフレット及びホームページの運営。2019ラグビーワールドカップ、2020東京オリンピック・パラリンピックに向けたインバウンド対応								
対象	外国人観光客または湯河原町を訪れようとする外国人観光客								
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・奏×狂言KATARIの開催 ・SANEHIRA漫画プロジェクトによる「ビャクシン」の発刊 ・外国人向けホームページの運営 ・部会を編成し、各分野の方にアドバイス等をもらいながら、外国人観光客の獲得のための検討 								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	2,500,000	2,100,000	1,500,000		
	人件費	728,300	732,800	742,400		
	非常勤職員等					
	人件費合計	728,300	732,800	742,400		
	総事業費	3,228,300	2,832,800	2,242,400		
財源内訳	国庫支出金		1,050,000			
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	3,228,300	1,782,800	2,242,400		
	財源合計	3,228,300	2,832,800	2,242,400		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
奏×狂言KATARI		入場者数	人	0	257	300
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)		対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	観光客数が低迷している現状を踏まえ、観光を基幹産業とする本町においては、町が本事業を実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	効果検証は難しいが、設置した3つの部会での活動は、インバウンド事業の推進に適切かつ有効な手段となっていると思われる。継続して事業を実施することにより、観光客増につなげたい。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	2019年のラグビーWC及び2020年の東京OP・PPに向け、湯河原温泉の情報を外国人観光客により強力に発信していく必要があり、その一助となっている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	観光事業者のみならず、町内各種団体及び公募による委員をもって構成するインバウンド情報発信推進会議に諮って事業を進めているため、受益の機会は均等であると考え。

平成30年度までの自己評価または改善点	平成30年度は、新たに部会を再編し、WEB情報発信検討部会・宣伝告知ツール活用部会・訪日外国人誘致対策部会の3つの部会において、事業目的ごとに計画を作成し、外国人観光客の獲得のための検討をした。
---------------------	---

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 湯河原温泉観光協会に委託済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	(実施済及び今後の予定) (1) 外国語パンフレット・リーフレット・マップ等の充実 (2) 外国語ホームページの充実 (3) 部会の再編 (4) モニターツアー等の実施
令和2年度以降の方向性	ホームページの拡充や外国人向けパンフレットのリニューアル及び増刷 また、WEB情報発信検討部会・宣伝告知ツール活用部会・訪日外国人誘致対策部会の3つの部会により、それぞれ、モニターツアーの実施など、インバウンドに資する事業の検討をする。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	増加が見込まれる外国人観光客に対して、継続して事業を実施することにより、本町の観光客数の増につなげていくこと。
------	----------	---

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3230	担当課等	観光課							
事務事業名	観光アドバイザー・プロモーション事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	平成 27 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P36 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(4) 観光情報発信の活性化、観光宣伝の強化	① 観光イベント・施設情報の提供				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	本町の観光客数が長年低迷している状況を踏まえ、観光の振興につながる新分野進出・新事業展開やインバウンド事業の推進などについて専門的な知識を持つ観光アドバイザーからの適切かつ有効な指導、助言を受ける。多種多様なメディアに対して働きかけ、本町の情報発信の拡充を図る。町の魅力を伝えられる写真や映像のデータベース化を図る。								
対象	観光客								
内容	<ul style="list-style-type: none"> 観光アドバイザーの設置 観光プロモーション活動の実施 湯河原観光のポータルサイトの立ち上げ、町の魅力を伝えられる写真や映像のデータベース化 インフルエンサーを使っでの湯河原観光のSNSでの発信 								

2 実施結果

(単位 円)

区分	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
	事業費	5,758,400	8,998,400	7,000,000	
コスト 人件費	常勤職員	728,300	732,800	742,400	
	非常勤職員等				
	人件費合計	728,300	732,800	742,400	
	総事業費	6,486,700	9,731,200	7,742,400	
財源 内訳	国庫支出金		4,499,200		
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	6,486,700	5,232,000	7,742,400	
	財源合計	6,486,700	9,731,200	7,742,400	
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
アドバイザーとの意見交換・講演等	アドバイザーの出席回数	回	4	4	5
プロモーション撮影	動画・静止画等の撮影	回	8	8	10
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)	対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	観光客数が低迷している現状を踏まえ、観光を基幹産業とする本町においては、町が本事業を実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4	効果検証は難しいが、観光振興につながる新分野、新事業などの、インバウンド事業の推進に適切かつ有効な指導、助言を得ることができ、継続して事業を実施することにより、観光客増につなげたい。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	町の魅力を伝えられる写真や映像のデータベース化が図られ、プロモーションビデオも完成することができた。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	観光事業者のみならず、町内各種団体及び公募による委員をもって構成する観光立町推進会議に諮って事業を進めているため、受益の機会は均等であると考え。

平成30年度までの自己評価または改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・小冊子(パン&ランチ・ラーメン)企画発行 ・部会を編成して、広報部会では、フリーペーパー「off」を年4回発行して、観光客への配布を行った。 ・観光アドバイザー政所利子先生に観光立町推進会議に出席いただき、湯河原の観光施策の方向性のアドバイスをいただく。
---------------------	--

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 湯河原温泉観光協会へ委託済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光アドバイザーの委嘱 政所利子氏に委嘱 ・観光アドバイザーの観光立町推進会議への出席 ・講演会の実施 ・動画、静止画の撮影及びプロモーションビデオの継続作成 ・富裕層をターゲットとしたモニターツアーの実施 ・部会制による検討・フリーペーパーOffの企画・編集
令和2年度以降の方向性	本町の観光振興推進のため、専門的な知識を持つアドバイザーの助言を得て、新事業の展開や的確なプロモーション活動を町が継続して実施する必要がある。作成したプロモーションビデオを有効活用する。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	継続して事業を実施することにより、観光客数の増につなげていくこと。
------	----------	-----------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3216	担当課等	観光課							
事務事業名	圏央道開通誘客促進事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	平成 26 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P36 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(4) 観光情報発信の活性化、観光宣伝の強化	① 観光イベント・施設情報の提供				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	圏央道の開通に伴い、新たな誘客先を開拓するため、各種誘客促進事業を一般社団法人湯河原温泉観光協会に委託するもの。								
対象	神奈川県北エリア(相模原市 72万人)、東京都多摩エリア(圏域人口154万人)、埼玉県西部エリア(圏域人口 89万人)を対象とした観光客								
内容	神奈川県内では相模原市周辺地区から、東京都では青梅市等多摩地区から、埼玉県では西部地区からの自動車を利用しての本町への新たな観光客の来訪が期待できる。当該地区には海がないことから、海水浴や花火大会、やっさまつりと続く夏季行事を中心とした誘客活動を観光関係団体等と連携し、展開していく。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)	
コスト	事業費	4,300,000	4,300,000	4,300,000	
	人件費	728,300	732,800	742,400	
	非常勤職員等				
	人件費合計	728,300	732,800	742,400	
	総事業費	5,028,300	5,032,800	5,042,400	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	5,028,300	5,032,800	5,042,400	
財源合計	5,028,300	5,032,800	5,042,400		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
キャラバンの実施		回	7	8	10
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)	対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 観光客数が低迷している現状を踏まえ、観光を基幹産業とする本町においては、町が観光協会と連携し、本事業を実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 平成26年度に行ったキャラバンにおいて、効果測定のための「町内施設招待券」を配布したが、回収率は1%程度であった。効果測定の検証は難しい。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 全国梅サミット協議会加盟の東京都青梅市、埼玉県越生町、群馬県安中市が圏央道の沿線地域にあるため、同協議会で課題となっている相互交流活動の一助になったと考える。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 本事業に関しては、受益の機会は均等であると判断している。
平成30年度までの自己評価または改善点	圏央道沿線の中で、全国梅サミット協議会加盟自治体での誘客キャラバンのほか、日帰り入浴施設を有するあきる野市との交流を優先して開催している。(全国梅サミット協議会では、例年サミット会議の開催のみでなく、相互交流事業が課題となっていた。)	

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	9	湯河原温泉観光協会へ委託済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	圏央道沿線の誘客を図る試みとして、青梅市民、越生町民、あきる野市民を対象とした宿泊助成制度を実施してきたが、(株)湯河原総合情報センターの廃業により廃止	
令和2年度以降の方向性	観光を基幹産業とする本町においては、町が観光協会と連携し、新たな誘客が期待できる本事業を継続して実施する必要がある。	

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(見直し)	圏央道開通から一定の期間が経過してきているため、事業を見直し新たな誘客を図っていくこと。
------	---------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(見直し)	
------	---------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3257	担当課等	観光課							
事務事業名	観光広報推進事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	平成 28 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P36 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(4) 観光情報発信の活性化、観光宣伝の強化	① 観光イベント・施設情報の提供				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	高度化・多様化するニーズを持つ観光客に対し、湯河原の観光資源等の情報を的確に提供することにより、誘客につなげる。 また、魅力的で話題性のある観光に資する情報を継続的に戦略的に発信する機会を創出することにより、国内外からの観光客の誘致を図り、地域の活性化を図る。								
対象	観光客・町民								
内容	各種メディアへの観光に資する情報の提供 各種メディアへの観光に資する情報の提供機会の創出								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	1,000,000	2,500,000	1,000,000		
	人件費					
	常勤職員	364,150	366,400	371,200		
	非常勤職員等					
	人件費合計	364,150	366,400	371,200		
	総事業費	1,364,150	2,866,400	1,371,200		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	1,364,150	2,866,400	1,371,200		
	財源合計	1,364,150	2,866,400	1,371,200		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光広報懇親会の実施			回	1	1	1
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)		対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 旅行記者や旅行ジャーナリスト、報道関係者の方に常に湯河原町は何かやっているぞ。という気にかけていただく存在となるべく、湯河原町が実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5 観光広報懇談会の実施により、確実な記事掲載につながり、メディア露出アップにつながっており、梅の宴においては、来園者増につながり、費用に見合った効果が得られている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5 確実な、メディア露出の増、懇談会での関係性の構築により、年間を通して、観光情報を発信することができている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 湯河原を訪れる計画を立てる目的として、受益の機会が均等である。

平成30年度までの自己評価または改善点	平成30年度は奏×狂言KATARI本番に向けて、マスコミ及び旅行者向けのプレ公演を実施した。
---------------------	--

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 湯河原温泉観光協会へ委託済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	観光広報懇談会の事業実施時期については、湯河原町にとって最大効果が得られる時期に実施したい。
令和2年度以降の方向性	各メディアにとって、湯河原町は、「いつでも何かやっているぞ」という位置づけになれるよう、継続して実施したい。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	誘客が期待できる事業であるため、継続して実施すること。
------	----------	-----------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3220	担当課等	観光課									
事務事業名	さつきの郷誘客事業											
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	平成	15	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P34 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(1) 観光資源の拡充・整備	① イベント充実				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	四季彩のまちを具現化する場所の一つとして、さつきの郷の開花に合わせ、誘客を図るもの。								
対象	観光客								
内容	星ヶ山公園さつきの郷観光宣伝チラシの作成(30,000枚)をする。 星ヶ山公園さつきの郷行事期間中の交通整理員等の委託業務。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	843,151	835,344	820,000		
	人件費	1,092,450	1,099,200	1,113,600		
	非常勤職員等					
	人件費合計	1,092,450	1,099,200	1,113,600		
	総事業費	1,935,601	1,934,544	1,933,600		
財源内訳	国庫支出金		417,672			
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	1,935,601	1,516,872	1,933,600		
	財源合計	1,935,601	1,934,544	1,933,600		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
チラシ配布数		広報	部	30,000	30,000	30,000
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
来場者数		観光客の誘致	人	6,246	3,525	4,000

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	4	観光客を誘致し、観光振興の発展に寄与しているため。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4	さつきの郷には、町内外から来場されており、一定の集客・消費拡大につながっている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	地場製品の販売、消費拡大など一定の観光振興につながっている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	受益の機会は均等である。

平成30年度までの自己評価または改善点	梅雨の時期のため、天候及び花の開花状況によって来場者数が大きく左右される状況にあるが、事業の広報の仕方について、検討、改善した。
---------------------	--

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既の実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	1	イベント等については、委託可能 交通整理等については、既に委託済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	アロハフラダンスや太極拳などのイベントのほか、メディカルハーブの販売などマルシェの充実を図った。	
令和2年度以降の方向性	四季彩のまちを具現化する場所として、眺望も良く、湯河原町にとって貴重な観光資源である。SNSを利用した情報発信、開花情報のリアルタイムで発信することなど、効果的な情報発信の方法について検討する。	

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(拡大)	四季彩のまちを具現化する場所として、行事を継続し、効果的な情報発信について更に検討していき、観光客の増につなげていくこと。
------	--------	---

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(拡大)	
------	--------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3212	担当課等	観光課								
事務事業名	万葉亭運営事業										
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	昭和	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P34 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(1) 観光資源の拡充・整備	① イベントの充実				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	万葉公園入口の茶室「万葉亭」の運営管理事業								
対象	観光客								
内容	万葉公園入口にある茶室万葉亭を運営し、万葉公園来園者へ抹茶とお茶の提供 大手旅行業者と連携し、オプション商品の一つとする。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	900,000	900,000	800,000		
	人件費	364,150	366,400	371,200		
	非常勤職員等					
	人件費合計	364,150	366,400	371,200		
	総事業費	1,264,150	1,266,400	1,171,200		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	1,264,150	1,266,400	1,171,200		
	財源合計	1,264,150	1,266,400	1,171,200		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
開館日数		イベント・祭事の充実	日	256	256	256
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
来園者数		観光客の誘致	人	2,655	2,176	2,200

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	4 観光客数が低迷している現状を踏まえ、観光を基幹産業とする本町においては、町が観光協会と連携し、本事業を実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	3 大手旅行業者との連携により効率的に事業展開できている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 大手旅行業者との連携により、来園者数は、2000人以上を確保できている。今後、さらに外国人旅行者が増えると思われるので、日本文化を体験できる本事業は誘客に期待もてる。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 受益の機会は均等である。

平成30年度までの自己評価または改善点	インバウンドのコンテンツとして検討した。
---------------------	----------------------

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既の実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 湯河原温泉観光協会へ委託済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	外国人旅行者が増えているため、日本文化が体験できるコンテンツとして、オプション商品に組み込むことにより、利用増につなげたい。
令和2年度以降の方向性	引き続き、大手旅行業者と連携し、オプション商品として販売する。また、外国人旅行者へ、日本文化を体験できるコンテンツとして、情報発信していく。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	今後、間違いなく増えるであろう外国人旅行者へ向け、販路を開拓することにより、さらなる誘客を目指すこと。
------	----------	---

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3208	担当課等	観光課								
事務事業名	花菖蒲管理事業										
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	昭和	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P34 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(1) 観光資源の拡充・整備	① イベントの充実				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	花菖蒲展を開催し、観光客の増加を図る。								
対象	観光客								
内容	ほたるの宴と同時期に花菖蒲展を開催し、観光客の増加を図る年間を通して、花菖蒲の育成を行う。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	900,000	900,000	900,000		
	人件費	364,150	366,400	371,200		
	非常勤職員等					
	人件費合計	364,150	366,400	371,200		
	総事業費	1,264,150	1,266,400	1,271,200		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	1,264,150	1,266,400	1,271,200		
財源合計	1,264,150	1,266,400	1,271,200			
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
花菖蒲展開催日数		観光イベントの充実	日	11	13	14
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
花菖蒲展来場者数		観光客の誘致	人	7,150	12,300	12,500

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	2 同時期に開催している、ほたるの宴において、十分に誘客をはかることが可能である。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	2 花菖蒲展は期間限定の行事であるが、花菖蒲の育成には、年間を通した作業が必要である
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	2 同時期に開催している、ほたるの宴において、十分に誘客をはかることが可能であり、花菖蒲展だけの誘客効果となると低いと思われる。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 受益の機会は均等である。

平成30年度までの自己評価または改善点	ほたるの宴と同時期に開催し誘客を図った。
---------------------	----------------------

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既の実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 湯河原温泉観光協会へ委託済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	
令和2年度以降の方向性	同時期のほたるの宴で誘客を図ることができ、また、花菖蒲の育成管理における年間を通したランニングコストを勘案すると、今後、継続する必要はないと考える。また、官民連携事業の今後の展開によっては、展示会場の確保が難しい可能性がある。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	廃止・中止	同時期のほたるの宴で誘客を図ることができ、また、花菖蒲の育成管理における年間を通したランニングコストを勘案すると、今後、継続する必要はないと考える。
------	-------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	廃止・中止	
------	-------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3174	担当課等	観光課							
事務事業名	観光立町推進事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	平成 24 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P34 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(1) 観光資源の拡充・整備	① イベントの充実				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年6月に策定した「観光立町推進計画」に基づき、観光立町の実現に向けた施策として、観光立町推進会議の審議を経て、講演会等を開催。 観光大使及びゆたぼんファイブがイベント等に出演する委託料を計上。 								
対象	観光客、観光大使、観光立町推進計画委員等								
内容	伝統芸能伝承事業 観光大使による観光宣伝 ゆたぼんイベント出演								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	13,356,430	12,798,594	8,652,000		
	人件費	728,300	732,800	742,400		
	非常勤職員等					
	人件費合計	728,300	732,800	742,400		
	総事業費	14,084,730	13,531,394	9,394,400		
財源内訳	国庫支出金		1,750,000			
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	14,084,730	11,781,394	9,394,400		
財源合計	14,084,730	13,531,394	9,394,400			
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
ゆたぼんファイブのイベント出演			回	44	67	50
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)		対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	県から万葉荘を取得し、万葉荘の営業を存続する事業は、町以外において実施することができない。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	効果検証は難しいが、約2万人の宿泊者を確保していること、一定の効果が得られていると考える。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	かつて、閉鎖となる予定であった万葉荘を県から取得し、年間約2万人の宿泊者を確保していることは一定の成果を得ていると考える。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	観光事業者のみならず、町内各種団体及び公募による委員をもって構成する観光立町推進会議に諮って事業を進めているため、受益の機会は均等であると考え。

平成30年度までの自己評価または改善点	湯河原町×ぐるなびパートナーシップ協定締結に基づくインバウンド対策セミナーの実施
---------------------	--

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 ゆたぼんのイベント出演等を委託済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・「観光立町推進事業講演会」等の事業を実施 ・伝統芸能の伝承「盆踊り」大会の実施 ・観光大使による観光宣伝及びゆたぼんイベント出演による観光PR事業
令和2年度以降の方向性	引き続き、観光立町推進計画に基づき、観光立町の実現に向けた施策を展開する

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(見直し)	継続して事業を実施することにより、観光客数の増につなげていくこと。
------	---------	-----------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(見直し)	
------	---------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3167	担当課等	観光課							
事務事業名	宿泊促進事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	平成 22 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P36 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(4) 観光情報発信の活性化、観光宣伝の強化	① 観光イベント・施設情報の提供				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	湯河原温泉旅館協同組合が宿泊促進事業として、旅行情報誌等への掲載及びインターネットを活用したPR事業やイベント、誘客キャラバンを実施								
対象	観光客、インターネット利用者								
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊誘客事業 ・旅行情報誌等への掲載及びインターネットを活用したPR事業 ・オータム花火等開催事業 ・誘客キャラバン実施事業 								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	39,193,646	43,672,661	12,532,000		
	人件費	728,300	732,800	742,400		
	非常勤職員等					
	人件費合計	728,300	732,800	742,400		
	総事業費	39,921,946	44,405,461	13,274,400		
財源内訳	国庫支出金		3,450,000			
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	39,921,946	40,955,461	13,274,400		
財源合計	39,921,946	44,405,461	13,274,400			
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
宿泊券発行冊数			冊	3,000	5,000	0
お座敷券発行冊数			冊	1,300	1,300	0
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)		対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	必要性がある。 観光客のニーズを把握することができる。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	費用対効果が得られている。 観光客のニーズを把握することができる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	成果が得られている。 観光客のニーズを把握することができる。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	受益の機会が均等である。
平成30年度までの自己評価または改善点	湯河原町の観光戦略を明確化することにより、誘客につなげるイメージギャップ調査を実施 落語一門会事業の開催		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 湯河原温泉観光協会へ委託済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	宿泊客を増やすため、宣伝事業(インターネット配信)や誘客キャラバンを実施 湯河原町の観光戦略を明確化することにより、誘客につなげるイメージギャップ調査を実施
令和2年度以降の方向性	本町の観光客数が低迷している状況を踏まえ、誘客事業に伴う本町の観光振興推進のため、町が継続して実施する必要がある。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	継続して事業を実施することにより、観光客数の増につなげていくこと。
------	----------	-----------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3120	担当課等	観光課							
事務事業名	誘客キャラバン委託事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	平成 21 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P36 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(1) 観光資源の拡充・整備	① 観光イベント・施設情報の提供				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	箱根駅伝で芦ノ湖周辺までいらした方々に、湯河原温泉が箱根から近いことを再認識していただくとともに、梅の宴等のイベントの情報をお知らせすることで誘客を図る。								
対象	観光客								
内容	箱根駅伝の予選会及び本選ゴール付近での誘客キャラバンの実施。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)	
コスト	事業費	2,768,000	2,468,000	2,468,000	
	人件費	728,300	732,800	742,400	
	非常勤職員等				
	人件費合計	728,300	732,800	742,400	
	総事業費	3,496,300	3,200,800	3,210,400	
財源内訳	国庫支出金		1,234,000		
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	3,496,300	1,966,800	3,210,400	
財源合計	3,496,300	3,200,800	3,210,400		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
ノベルティ・チラシ配布		組	4,000	4,000	4,000
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)	対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	4 湯河原町において観光・誘客行事の円滑な実施に努め、観光の発展及び振興に寄与することを目的とした団体で、観光を基幹産業とする本町においては、町と連携して事業を実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 ノベルティーと一緒に配布することにより、イベント情報だけでなく、湯河原町の特産品もPRすることができている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 湯河原町と箱根町の位置関係がプリントされた袋での配布により、効果的な宣伝が図れている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 受益の機会は均等と考える。

平成30年度までの自己評価または改善点	町・議会・観光協会で開催していたが、商工会も加わり、オール湯河原で実施している。 梅の宴特別優待券の同封し、その回収率による費用対効果の検証を実施
---------------------	--

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 湯河原温泉観光協会へ委託済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	より多くの方へのPRとして、配布用ノベルティーを増やす。 梅の宴特別優待券の同封し、その回収率による費用対効果の検証を実施
令和2年度以降の方向性	本町の観光客数が低迷している状況を踏まえ、本町の観光振興推進のため、観光アドバイザーの助言を得て、新事業の展開や的確なプロモーション活動を町と連携し実施する必要がある。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	継続して事業を実施することにより、観光客数の増につなげていくこと。
------	----------	-----------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3250	担当課等	観光課							
事務事業名	最旬マガジン(フリーペーパー)発行事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	平成 29 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P34 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(1) 観光資源の拡充・整備	① イベントの充実				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	本当に求められる地域の情報、魅力ある観光情報を町内外へ発信し、誘客を図る。								
対象	町民・観光客								
内容	最旬マガジン(フリーペーパー)の発行 湯河原散策マップの発行								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	2,547,292	3,287,520	3,236,000		
	人件費	364,150	366,400	371,200		
	非常勤職員等					
	人件費合計	364,150	366,400	371,200		
	総事業費	2,911,442	3,653,920	3,607,200		
財源内訳	国庫支出金		1,643,760			
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	2,911,442	2,010,160	3,607,200		
	財源合計	2,911,442	3,653,920	3,607,200		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
フリーペーパーの発行			部	40,000	40,000	40,000
散策マップ印刷			部	50,000	50,000	50,000
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)		対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	観光客への周知・イベント会場での配布などで、「湯河原町」をアピールするチラシ・パンフレットは町が作製する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	パンフレット配布により、受領者が湯河原を訪れる行程あるいは散策できる施設の照会に対応ができるため、費用に見合った効果が得られる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	携帯端末が普及し、インターネット利用者が急増していますが、イベント開催内容・ハイキングコース案内などの配布には成果が得られる。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	湯河原を訪れる計画を立てる目的として、受益の機会が均等である。

平成30年度までの自己評価または改善点	12ページ仕様から16ページ仕様に変更し、配架場所も拡大した。
---------------------	---------------------------------

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 フリーペーパーの企画・編集・発行を委託済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	本当に求められる旬な地域の情報を掲載したフリーペーパーを発行。内容の充実や配架場所を拡大する。 年4回 各10,000部
令和2年度以降の方向性	逐次、内容を最新版に更新。 また、SNSと連携した誌面の作成及び読者プレゼント企画等の検討

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	誘客が期待できる事業であるので、継続して実施していくこと。
------	----------	-------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3116	担当課等	観光課								
事務事業名	誘客宣伝事業										
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P36 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(1) 観光資源の拡充・整備	① 観光イベント・施設情報の提供				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	インターネットを活用した個人消費者へのPRを行い、宿泊客の誘導を図る。また、観光宣伝用ノベルティー等を作成し、各種観光キャラバン等で配布し誘客を図る。								
対象	観光客								
内容	旅行エージェント(リクルート、楽天トラベル等)のインターネットの活用や誘客キャラバンの実施。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	7,350,000	7,350,000	7,350,000		
	人件費	728,300	732,800	742,400		
	非常勤職員等					
	人件費合計	728,300	732,800	742,400		
	総事業費	8,078,300	8,082,800	8,092,400		
財源内訳	国庫支出金		3,675,000			
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	8,078,300	4,407,800	8,092,400		
	財源合計	8,078,300	8,082,800	8,092,400		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
誘客キャラバン数		誘客宣伝	回	11	11	11
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)		対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	4 観光を基幹産業とする本町において、町と連携して事業を実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 インターネットの活用や誘客キャラバンの実施により、誘客が図られている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 インターネットの活用や誘客キャラバンの実施により、誘客が図られている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 受益の機会は均等と考える。

平成30年度までの自己評価または改善点	インターネットのアクセス数、エリア別の観光客数、年齢層などを解析し、具体的な戦略を検討する。
---------------------	--

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	9	委託にて実施済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	夏季行事(やっさまつり・海水浴・納涼縁日など)のチラシ及び、うちわの配布による誘客キャラバンの実施。	
令和2年度以降の方向性	本町の観光客数が低迷している状況を踏まえ、本町の観光振興推進のため、観光アドバイザーの助言を得て、新事業の展開や的確なプロモーション活動を町と連携し実施する必要がある。	

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	継続して事業を実施することにより、観光客数の増につなげること。
------	----------	---------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3159	担当課等	観光課							
事務事業名	もみじの郷行事開催事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	平成 18 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P34 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(1) 観光資源の拡充・整備	① イベントの充実				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・奥湯河原池峯地区において「もみじの郷」を秋の誘客の基盤とするため、行事を開催するため。 ・行事開催に伴う宣伝及びPR事業 ・行事開催に伴うイベントの実施(お茶室等の開設) ・もみじの郷チラシ作製 								
対象	観光客、ハイカー、お茶愛好家、もみじの郷チラシ受領者								
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・奥湯河原を中心とした紅葉の美しさを広く周知 ・近郊周遊型の誘致を図る 								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	1,250,000	1,250,000	1,250,000		
	人件費	728,300	732,800	742,400		
	非常勤職員等					
	人件費合計	728,300	732,800	742,400		
	総事業費	1,978,300	1,982,800	1,992,400		
財源内訳	国庫支出金		625,000			
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	1,978,300	1,357,800	1,992,400		
	財源合計	1,978,300	1,982,800	1,992,400		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
お茶室利用者			人	1,891	1,522	1,500
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)		対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	3	必要性がある。 秋の観光客を誘客するため
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	2	費用対効果が得られていない。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	2	成果が得られていない
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	受益の機会が均等である。
平成30年度までの自己評価または改善点	・もみじのハイキングコースの周知		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 一般社団法人湯河原温泉観光協会へ委託
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	・もみじの現状(落葉の進捗状況)を把握し、早く利用者(ハイカーや茶室利用客)へ周知 ・お茶室の所有者変更により、使用不可となったため、代替地等の検討が必要
令和2年度以降の方向性	本町の観光客数が低迷している状況を踏まえ、秋の誘客推進を図るため、町が継続して実施する必要がある一方、費用対効果の面から、あらたな事業への振替の検討時にきていると考える。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	継続し事業を実施することにより、観光客数の増につなげるとともに、より一層の誘客を図るため実施内容について再検討をすること。
------	----------	---

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3163	担当課等	観光課									
事務事業名	梅基金積立金											
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	平成	7	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P34 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(1) 観光資源の拡充・整備	① イベントの充実				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	湯河原梅林の保護育成・整備事業の財源とするための積立金。								
対象	町民・観光客								
内容	梅の宴行事開催中、募金箱を設置し、寄付を募り、湯河原梅林の保護・育成に活用している。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)	
コスト	事業費	50,760	106,862	200,000	
	人件費	218,490	219,840	222,720	
	非常勤職員等				
	人件費合計	218,490	219,840	222,720	
	総事業費	269,250	326,702	422,720	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	269,250	326,702	422,720	
財源合計	269,250	326,702	422,720		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
梅基金寄付金		円	50,760	106,862	200,000
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	湯河原梅林という貴重な共有財産を次世代に引き継ぐためにも、町が実施する必要と責任がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	3	
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	2	梅の宴の来場者数と比例するため、来場者が少ないと成果が低いと思われる。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	受益の機会は均等である。

平成30年度までの自己評価または改善点	梅の宴開催期間中に募金箱を設置した。
---------------------	--------------------

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既の実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 町基金であるため。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	梅の宴開催期間中に募金箱を設置。 梅林を観光資源として保護育成することの重要性について再認識する機会となるため、梅基金についても積極的に寄付金を募る方策を検討したい。
令和2年度以降の方向性	梅PPV対策の観点からも、湯河原梅林という貴重な共有財産を次世代に引き継ぐためにも、継続して実施する必要がある。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	引き続き、湯河原梅林という貴重な共有財産を次世代に引き継ぐため、寄付金を募る方策について検討していくこと。
------	----------	---

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3132	担当課等	観光課							
事務事業名	湯河原梅林公園管理事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	平成 7 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P36 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(1) 観光資源の拡充・整備	① 観光イベント・施設情報の提供				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	湯河原梅林公園への来園者を迎えるにあたり、きめ細やかなサービスを提供することにより、多くのリピーターを確保し、更なる活性化を図る。また、電子マネー端末機の導入し料徴収の迅速化を図り集客効果の向上を見込む。								
対象	住民及び観光客								
内容	湯河原梅林公園の開園に伴う必要な会場設備、料金徴収に伴う委託や電子マネー端末機の導入、入園券の印刷、仮設トイレの設置等の経費。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	18,267,665	18,215,770	19,703,000		
	人件費	7,283,000	7,328,000	7,424,000		
	常勤職員					
	非常勤職員等					
	人件費合計	7,283,000	7,328,000	7,424,000		
	総事業費	25,550,665	25,543,770	27,127,000		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	25,550,665	25,543,770	27,127,000		
	財源合計	25,550,665	25,543,770	27,127,000		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光ポスター・チラシ作製		事業の周知・広報	枚	142,970	142,970	143,000
来園者数		事業効果の客観的判断	人	59,436	68,083	90,000
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
来園者数			人	59,436	68,083	90,000

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	4	湯河原梅林公園の開園に伴う必要な会場設備などは、町が整備する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4	湯河原梅林公園への来園者を迎えるにあたり、きめ細やかなサービスを提供することにより、多くのリピーターを確保している。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	立春の観光行事として、町内外で広く認知されている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	来園者が、快適かつ安全に見学ができています。
平成30年度までの自己評価または改善点	<ul style="list-style-type: none"> 渋滞緩和を目的とし、町民体育館駐車場を利用してのパーク&バスライドの実施。 電子マネー(suica)をど来園者の利便性の向上を図った。 旅館の送迎用バスを、第1駐車場まで乗り入れを実施。 梅コンの実施による若者世代の来場者増及び話題性によるメディア露出 		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	3	湯河原梅林公園の開園に伴う施設整備等のため、町が行う必要がある。料金徴収業務等については、既に委託済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	パーク&バスライドについて、利用者の減少や町民体育館の駐車台数減少に伴い、実施を中止とする。	
令和2年度以降の方向性	来園者が、快適に散策でき、魅力ある地場製品の販売など、誘客の増加を図れるよう、継続していく必要がある。	

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	事業内容の見直しを図り効果的に事業を実施することにより、観光客数の増につなげていくこと。
------	----------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3128	担当課等	観光課								
事務事業名	ポスター観光宣伝事業										
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	昭和	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P36 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(1) 観光資源の拡充・整備	① 観光イベント・施設情報の提供				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	湯河原温泉の観光誘致ポスターの作製にあたり、旅館組合・観光協会・商工会等の各種業界の会員等からなる「湯河原温泉宣伝推進委員」へ委託することにより、一貫したテーマで誘致ポスターの作製(春・秋)並びに首都圏各駅等への提出を実施し、常に新しい湯河原の周知を図る。								
対象	住民及び観光客								
内容	湯河原温泉をPRするのあたり、業界内の意見を統一しテーマを一本化することにより効果的な宣伝を行う。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	1,000,000	1,100,000	1,100,000		
	人件費	728,300	732,800	742,400		
	非常勤職員等					
	人件費合計	728,300	732,800	742,400		
	総事業費	1,728,300	1,832,800	1,842,400		
財源内訳	国庫支出金		550,000			
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	1,728,300	1,282,800	1,842,400		
	財源合計	1,728,300	1,832,800	1,842,400		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光ポスターの作成		事業の周知・広報	枚	1,250	1,250	1,250
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)		対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	4 湯河原温泉の活性化と発展に寄与することを目的とし、観光宣伝ポスターの製作を主とした宣伝活動を展開し、より一層の誘客を図る。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 小田急主要駅へ掲出することにより、首都圏からの誘客が図れている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 業界内の意見を統一し、テーマを一本化することにより効果的な宣伝が図れている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 受益の機会は均等である。

平成30年度までの自己評価または改善点	湯河原温泉の観光宣伝用ポスターを作成し掲出 春夏用・秋冬用 各1,250枚
---------------------	--

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 湯河原温泉誘客対策協議会に委託
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	実施済事項及び今後の予定 テーマ及びポスターレイアウトは決定。9月には秋バージョンを作成。
令和2年度以降の方向性	本町の観光客数が低迷している状況を踏まえ、消費者に湯河原温泉を広く紹介する観光宣伝ポスターの企画・製作・掲出を実施するにあたり、業界及び商工関係者等の民間活力を事業に反映し、湯河原温泉の観光誘客を図る。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	継続して事業を実施することにより、観光客数の増につなげていくこと。
------	----------	-----------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3112	担当課等	観光課								
事務事業名	湯河原温泉誘客対策協議会補助金										
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	昭和	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P34 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(1) 観光資源の拡充・整備	① 観光イベント・施設情報の提供				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
								○	
目的	JR、JTB、近畿日本ツーリスト、小田急トラベル、日本旅行等の協定旅館連盟が実施する誘客キャンペーンに対しての事業補助をすることにより、誘客を図る。								
対象	観光客								
内容	各エージェント(JR、JTB、近畿日本ツーリスト、小田急トラベル、日本旅行)が企画する誘客キャンペーンを補助することにより、より多く「ゆがわら」を商品としたパッケージを誘導する。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	1,500,000	1,500,000	1,500,000		
	人件費	728,300	732,800	742,400		
	常勤職員					
	非常勤職員等					
	人件費合計	728,300	732,800	742,400		
	総事業費	2,228,300	2,232,800	2,242,400		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	2,228,300	2,232,800	2,242,400		
	財源合計	2,228,300	2,232,800	2,242,400		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
誘客宣伝数		誘客宣伝・販売促進	回	7	7	10
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)		対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	4 観光客数が低迷している現状を踏まえ、各エージェントに、より多く「ゆがわら」を商品としたパッケージを企画誘導する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 駅コンコースでのキャラバンや、販売店などで湯河原温泉のPRやパッケージ商品の販売促進などを実施することにより、誘客が図れている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 各エージェントによる、湯河原温泉のPRやパッケージ商品の販売などにより、誘客が図れている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 受益の機会は均等と考える。

平成30年度までの自己評価または改善点	湯河原温泉の各旅行会社協定旅館連盟が誘客事業を実施した。
---------------------	------------------------------

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既の実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 湯河原温泉誘客対策協議会への補助金のため。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	SNSの利用やゆるきゃらを活用した誘客活動なども検討
令和2年度以降の方向性	本町の観光客数が低迷している状況を踏まえ、本町の観光振興推進のため、観光アドバイザーの助言を得て、新事業の展開や的確なプロモーション活動を町と連携し実施する必要がある。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	各エージェントにより多くのパッケージ商品を企画してもらい、観光客数の増につなげていくこと。
------	----------	---

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3108	担当課等	観光課								
事務事業名	湯河原温泉観光協会補助金										
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	昭和	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P36 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(1) 観光資源の拡充・整備	① 観光イベント・施設情報の提供				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	湯河原温泉への誘客キャラバン、エージェン等への宣伝PR活動の実施、また、湯河原温泉独自のイベントを実施することにより誘客を図る。								
対象	住民及び観光客								
内容	湯河原温泉独自の多種多様なイベント(湯かけまつり等)の観光行事、誘客宣伝・キャラバンの実施及び観光案内業務の実施。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成28年度(決算)	平成29年度(決算)	平成30年度(見込)	
コスト	事業費	34,200,000	34,200,000	34,200,000	
	人件費	728,300	732,800	742,400	
	非常勤職員等				
	人件費合計	728,300	732,800	742,400	
	総事業費	34,928,300	34,932,800	34,942,400	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	34,928,300	34,932,800	34,942,400	
財源合計	34,928,300	34,932,800	34,942,400		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
イベント用チラシ作製	事業の周知・広報	枚	230,000	230,000	230,000
取材協力	宣伝PR	回	30	30	30
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)	対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	4 湯河原町において観光・誘客行事の円滑な実施に努め、観光の発展及び振興に寄与することを目的とした団体で、観光を基幹産業とする本町においては、町と連携して事業を実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 宣伝PR活動の実施、また、湯河原温泉独自のイベントを実施することにより誘客が図れている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 宣伝PR活動の実施、また、湯河原温泉独自のイベントを実施することにより誘客が図れている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 受益の機会は均等と考える。

平成30年度までの自己評価または改善点	新たな行事、誘客宣伝など、誘客対策の検討。
---------------------	-----------------------

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 湯河原温泉観光協会への補助金のため。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	湯かけまつり等の観光行事、誘客宣伝・キャラバンの実施及び観光案内業務の実施。
令和2年度以降の方向性	本町の観光客数が低迷している状況を踏まえ、本町の観光振興推進のため、観光アドバイザーの助言を得て、新事業の展開や的確なプロモーション活動を町と連携し実施する必要がある。 サンパレードの廃止に伴う新規イベントの検討や、やっさまつり等への新たな参画の検討などの必要がある。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	観光協会に新規イベントの企画等の検討を依頼するなど、町と連携し観光客数の増につなげていくこと。
------	----------	---

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3104	担当課等	観光課							
事務事業名	西さがみ地区観光フェスティバル宣伝事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	昭和 44 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P36 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(3) 観光資源のネットワーク化	② 新規広域観光ルートの開発				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	小田原・南足柄・箱根・真鶴との2市3町で「西さがみ」という名称で共同宣伝を実施していくもの。 周遊型観光戦略のひとつとして、「西さがみ」共通のテーマを定め、連帯性をもたせ周遊できるエリアを広げ、更なる集客を図る。								
対象	観光客								
内容	公益社団法人神奈川県観光協会に2市3町合同事業を委託し、観光展・キャラバン等の開催、共同パンフレットの作製及びポスター宣伝を実施。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)	
コスト	事業費	900,000	900,000	900,000	
	人件費	728,300	732,800	742,400	
	非常勤職員等				
	人件費合計	728,300	732,800	742,400	
	総事業費	1,628,300	1,632,800	1,642,400	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	1,628,300	1,632,800	1,642,400	
財源合計	1,628,300	1,632,800	1,642,400		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光プロモーション・キャラバン	誘客宣伝	回	8	8	8
ポスター作成	広報・宣伝	枚	40,000	40,000	40,000
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)	対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	4 小田原・南足柄・箱根・真鶴との2市3町で「西さがみ」という名称で合同で事業委託することにより、周遊型観光戦略として、連帯性をもたせ「西さがみ地区」への誘客が図れる。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 共同宣伝することにより、JRの月別重点地区に指定され、誘客効果をあげている。また、関西・東北地方などでのキャラバンの実施により、誘客が図られている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 周遊型観光戦略として、宣伝PR活動を実施することにより、「西さがみ地区」への誘客が図れている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 受益の機会は均等と考える。

平成30年度までの自己評価または改善点	小田原市観光大使の白井貴子氏による、テレビ、新聞社などでの「西さがみ地区」の誘客宣伝の実施。また、行政及び民間事業者との合同誘客宣伝を実施した。平成29年度から、各市町負担金の一律10万円の減額
---------------------	---

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既の実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 西さがみ(2市3町)が分担金としている。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	・関西地方(大阪・名古屋)、東北地方(仙台)、首都圏(大宮・横浜・川崎)での誘客宣伝・キャラバンの実施。
令和2年度以降の方向性	外国人旅行客を取り込み、西さがみ地区に周遊できるような検討、新事業の展開など「西さがみ地区」への誘客を図る必要がある。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	周遊型観光戦略として、連帯性をもたせ「西さがみ地区」への観光客数の増加を図っていくこと。
------	----------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3076	担当課等	観光課									
事務事業名	梅の宴行事開催事業											
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	平成	7	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P36 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(1) 観光資源の充実・整備	① 観光イベント・施設情報の提供				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	幕山の裾野に広がる湯河原梅林で、立春イベントとして「梅の宴」を開催することにより集客効果の向上を図る。								
対象	住民及び観光客								
内容	多種多彩なイベント等(芸妓の舞・和太鼓等)を企画・運営し、梅の宴として開催。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	9,963,331	11,041,602	10,532,000		
	人件費	7,283,000	7,328,000	7,424,000		
	非常勤職員等					
	人件費合計	7,283,000	7,328,000	7,424,000		
	総事業費	17,246,331	18,369,602	17,956,000		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	17,246,331	18,369,602	17,956,000		
財源合計	17,246,331	18,369,602	17,956,000			
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光ポスター・チラシ作製		事業の周知・広報	枚	142,970	142,970	143,000
来園者数		事業効果の客観的判断	人	59,436	68,083	90,000
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
来園者数			人	59,436	68,083	90,000

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	行政機関への申請、調整は町が行う必要性はあるが、行事全体はイベントの発想の多様性を考慮すると必ずしも町が行う必要性は認められなく、現在、官民共同の実行委員会方式で実施している。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	梅の宴開催期間中には、約15,000人も観光客が湯河原へ宿泊されているので、一定の効果が得られている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	近年、園者数が減少傾向にある。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	均等と考えている。

平成30年度までの自己評価または改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・足の不自由な方へ、電動車いすを貸与。 ・新規イベントとして婚活イベントを実施し、若年層への湯河原温泉PRの実施 ・ライトアップ期間の集客を見込んだイベント等の実施
---------------------	--

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 実行委員会に委託している。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	(実施済及び今後の予定) <ul style="list-style-type: none"> ・婚活イベントの継続 ・狂言の宴の実施及び日本文化体験プログラムによる外国人観光客の取り込み
令和2年度以降の方向性	来園客数が低迷している状況を踏まえ、新たなイベントの実施や積極的にプロモーション活動を継続して実施する必要がある。 また、外国人観光客の誘客にも力を入れていきたい。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	来園者の増加を図るための方策を検討し、観光客数の増につなげていくこと。
------	----------	-------------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3045	担当課等	観光課								
事務事業名	夏季行事開催事業										
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	昭和	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P36 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(1) 観光資源の拡充・整備	① 観光イベント・施設情報の提供				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	夏季休暇の期間にイベントを開催することにより集客効果の向上を図る。								
対象	住民及び観光客								
内容	やっさまつり(踊りパレード)、海上花火大会の実施及び海水浴場の運営を夏季行事として開催								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	35,075,387	35,133,716	27,230,000		
	人件費	7,283,000	7,328,000	7,424,000		
	非常勤職員等					
	人件費合計	7,283,000	7,328,000	7,424,000		
	総事業費	42,358,387	42,461,716	34,654,000		
財源内訳	国庫支出金		3,950,000			
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	42,358,387	38,511,716	34,654,000		
	財源合計	42,358,387	42,461,716	34,654,000		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光ポスター・チラシ作製		事業の周知・広報	枚	31,200	31,200	31,200
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観覧者数		事業効果の客観的判断	人	95,000	89,000	100,000
海水浴場利用者			人	114,400	53,600	100,000

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	4 行政機関への申請、調整は町が行う必要性はあるが、行事全体はイベントの発想の多様性を考慮すると必ずしも町が行う必要性は認められなく、現在、官民共同の実行委員会方式で実施している。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 踊りパレード2日2.1万人、3日1.5万人及び海上花火大会(10月1日に延期し1.8万人)開催時には町民・観客が一同を介し増加しているため、一定の効果が得られている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 海上花火大会を3回実施し、観客は増加しているが、踊りパレードの観客は横ばいの傾向にある。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 住民や観光客が参加できるイベントであり、受益の機会は均等である。住民、観光客とも夏季休暇中の一大イベントとして認識されており、町としても同様に位置付け広報等を行い周知している。
平成30年度までの自己評価または改善点	平成14年度から踊りパレードに新調を加え、幕山公園通りの参加団体の維持に努め、平成24年度から新たに海上花火大会を7月に開催した。平成26年度からは、7月の海上花火大会を夏休みに入ってから祝休日としている。平成28年度からは、秋季花火大会を実施した。	

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	9	実行委員会を組織し、委託
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	海辺公園での花火見学者の安全確保の対応を実施。平成28年度から実施した秋季花火大会を、ハロウィンイベントのコラボ開催により、集客を図る。	
令和2年度以降の方向性	湯河原温泉宿泊者を対象とした踊り体験企画の検討により、参加団体の増加及び集客を図る。	

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(見直し)	やさまつりの踊りパレードに参加する団体を増やすなど、観光客数の増につなげるためにも、集客対策の見直しが必要である。
------	---------	---

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(見直し)	
------	---------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3041	担当課等	観光課									
事務事業名	駅前LED広告掲出事業											
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	平成	6	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P36 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(4) 観光情報発信の活性化、観光宣伝の強化	① 観光イベント・施設情報の提供				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	(株)湯河原総合情報センターから無償譲渡により所有する駅前大型LED表示装置を湯河原町の広報媒体として活用。 町広報紙同様に町民への周知板及び観光客へのPR板として広く活用。								
対象	湯河原町に訪れた観光客、町民								
内容	湯河原の玄関口である駅前に設置してあるLED表示装置により、ホームに降り立った観光客にイベント等の案内の充実化を図る。 また、町民についても、町広報を周知するサービスが徹底できる。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	2,488,320	2,488,320	0		
	人件費	728,300	732,800	742,400		
	非常勤職員等					
	人件費合計	728,300	732,800	742,400		
	総事業費	3,216,620	3,221,120	742,400		
財源内訳	国庫支出金		1,244,160			
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	3,216,620	1,976,960	742,400		
	財源合計	3,216,620	3,221,120	742,400		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
放映番組数			本	221	220	
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)		対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 湯河原駅に設置することにより、観光客には観光イベントなどの情報の提供を、町民には広報ゆがわら掲載記事などを提供することが可能である。 情報発信のひとつの媒体として、町が実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 情報発信媒体がSNS(スマホやタブレット端末)などへ移行してきていることにより、中長期的には、廃止も含めた見直しを検討する必要がある。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 情報発信媒体がSNS(スマホやタブレット端末)などへ移行してきていることにより、事業の成果が低くなりつつある。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 町は、情報発信媒体のひとつとして、第三セクター(株)湯河原総合情報センターは、株主に対して広告掲載の依頼をしており、受益の機会は均等と考える。

平成30年度までの自己評価または改善点	(株)湯河原総合情報センターが、平成30年度をもって廃業となったことから、LED広告掲示板については町へ無償譲渡され、町施設として活用することとなった。
---------------------	--

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 (株)湯河原総合情報センターに委託している。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	LED広告掲示板については、引き続き町の広報媒体として活用していく
令和2年度以降の方向性	LED広告掲示板の活用について模索する

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(見直し)	現状維持とするが、今後の事業廃止時期を判断すること。
------	---------	----------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(見直し)	
------	---------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	1016	担当課等	観光課							
事務事業名	光風荘運営助成金									
予算科目コード	会計	01	款	02	項	01	目	12	事業開始年度	平成 14 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P36 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(4) 観光情報発信の活性化、観光宣伝の強化	③ 拠点観光スポットの整備・活用				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
								○	
目的	観光資源(2.26事件のうち国内唯一の地方現場の光風荘)の存続・保存								
対象	来館者								
内容	観光ボランティアが来館者への史実の説明及びおもてなし								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)	
コスト	事業費	572,000	564,000	570,000	
	人件費	364,150	366,400	371,200	
	非常勤職員等				
	人件費合計	364,150	366,400	371,200	
	総事業費	936,150	930,400	941,200	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	936,150	930,400	941,200	
	財源合計	936,150	930,400	941,200	
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光ボランティア活動員累計	観光案内実績	人	508	545	550
光風荘保存会会員数	観光資源の保存	人	40	35	40
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
来館者数		人	3,313	3,596	3,600

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	2・26事件のうち国内唯一の地方現場である光風荘は、歴史的観光資源として存続・保存するため、町が助成する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	観光ボランティアにより史実の説明を行うことにより、歴史的観光資源の周知につながっている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	年間約3,500人の来館者があり、歴史的建造物の観光資源化の取組みの成果が得られている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	町の振興につながるため、受益の機会は均等である。

平成30年度までの自己評価または改善点	平成30年度は、雨漏りがあったため、屋根の修理を行った。 「2.26事件」の唯一の地方現場資料館として、展示内容の充実を図った。
---------------------	---

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既の実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 光風荘保存会への運営助成にて対応したい。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	展示室をはじめ、老朽化する施設の維持のため会員数の増加を図る。
令和2年度以降の方向性	今後も光風荘の所有者から引き続き借用できるように、光風荘保存会と協議し、多くの来館者に訪問される施設として事業を継続していきたい。 老朽化する施設を維持するため、会員数の増及び改修計画の作成

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	観光資源として重要であることから、事業を継続すること。
------	----------	-----------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3377	担当課等	観光課							
事務事業名	観光会館運営事務経費									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	05	事業開始年度	昭和 38 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(2) 観光施設の整備・充実、個性化	② 観光施設の活用				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理制度による施設の運営 指定管理者との協議により、計画的な修繕をしていく。 								
対象	施設利用者								
内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設の維持管理修繕 								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	25,398,979	25,892,493	26,703,000		
	人件費	910,375	916,000	928,000		
	常勤職員					
	非常勤職員等					
	人件費合計	910,375	916,000	928,000		
	総事業費	26,309,354	26,808,493	27,631,000		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	26,309,354	26,808,493	27,631,000		
	財源合計	26,309,354	26,808,493	27,631,000		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
駐車台数			台	16,331	16,197	16,500
会議室使用件数			件	143	201	215
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)		対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 町の観光の中心施設である観光会館は、町が整備する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5 観光会館を整備することにより、安全・安心に利用できる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5 指定管理者制度により(一社)湯河原観光協会が運営することにより、民間活力の導入となっている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 受益の機会は均等である。

平成30年度までの自己評価または改善点	電気自動車急速充電器の導入及び利用者の増加
---------------------	-----------------------

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既の実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 指定管理導入済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	駐車場台数、急速充電器の利用が増加傾向にあることから、なお利用者の増加を図る。
令和2年度以降の方向性	指定管理期間が30年度末で終了するが、31年度以降も指定管理制度を継続していきたい。 官民連携事業・「万葉公園・周辺地区まちづくり事業」の進捗に注視していくこと。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(見直し)	①将来の整備について、観光会館の将来のあり方も視野に入れること。 ②官民連携事業「万葉公園・周辺地区まちづくり事業」の進捗に注視していくこと。
------	---------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

官民連携により、温泉場エリアの玄関口としての整備を推進する必要がある。

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(見直し)	
------	---------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	7874	担当課等	観光課								
事務事業名	公衆便所改修事業										
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	03	事業開始年度	昭和	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P35 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(2) 観光施設の整備 充実、個性化	② 観光施設の活用				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
	○								
目的	湯河原を訪れる外国人観光客が、公衆便所を利用した際に不快な思いをしないよう洋式化を進める。								
対象	施設利用客								
内容	不動滝公衆便所を男女各1基洋式便器に改修(単年度事業)								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費		691,200			
	人件費		366,400			
	常勤職員					
	非常勤職員等					
	人件費合計	0	366,400	0		
	総事業費	0	1,057,600	0		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	0	1,057,600	0		
	財源合計	0	1,057,600	0		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
公衆便所の洋式化			箇所	1	1	1
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)		対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	公衆衛生法の観点から町が整備すべきもの。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	3	事業の目的としては、ほぼ効果は得られている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	利用者には好評を得ている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	3	受益の機会に特に差はみられない。
平成30年度までの自己評価または改善点	2020東京オリンピック、パラリンピックを控え、インバウンド対策の一環として実施		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	3	インバウンド政策の一環として、公衆便所をはじめとする公共施設のトイレは、町が洋式化を進める必要がある
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	トイレ整備計画等策定に向けた基礎調査の結果をふまえて、どこのトイレを整備すべきなのか見極めていきたい。	
令和2年度以降の方向性	快適な公衆便所を使用させていただくため、平成30年度以降も、観光施設公衆便所の洋式化を進めたい。	

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	継続して事業を実施することにより、観光客数の増につなげること。
------	----------	---------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

単年度事業として、今後の維持管理は管理経費により対応する。

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(見直し)	
------	---------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3387	担当課等	観光課									
事務事業名	観光会館改修事業											
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	05	事業開始年度	昭和	58	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P35 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(2) 観光施設の整備・充実、個性化	② 観光施設の活用				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	指定管理者との協定に基づき、観光会館各所の老朽化に伴い、修繕を行うもの。(1件あたりの金額は、他の指定管理者と同様に20万円以上)								
対象	会館利用者								
内容	自動火災報知機受信機等の取替え(単年度事業)								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	399,600	1,171,800			
	人件費	910,375	916,000			
	常勤職員					
	非常勤職員等					
	人件費合計	910,375	916,000	0		
	総事業費	1,309,975	2,087,800	0		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	1,309,975	2,087,800	0		
	財源合計	1,309,975	2,087,800	0		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
駐車台数			台	16,331	16,197	16,500
会議室使用件数			件	143	201	215
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)		対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 町の観光の中心施設である観光会館は、町が整備する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5 観光会館を整備することにより、安全・安心に利用ができる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5 指定管理者制度により(一社)湯河原観光協会が運営することにより、民間活力の導入となっている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 受益の機会は均等である。

平成30年度までの自己評価または改善点	自動火災報知機受信機等の修繕を行った。
---------------------	---------------------

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既の実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 町施設のため
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	観光会館自動火災報知設備受信機のメーカー補修期限が終了し、部品の供給が困難になったため、取り替えるもの。 官民連携事業・「万葉公園・周辺地区まちづくり事業」の進捗に注視していくこと。
令和2年度以降の方向性	平成30年度以降も、指定管理者である(一社)湯河原温泉観光協会と協議し、観光会館改修事業を継続していきたい。 官民連携事業・「万葉公園・周辺地区まちづくり事業」の進捗に注視していくこと。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(見直し)	①将来の整備について、観光会館の将来のあり方も視野に入れること。 ②官民連携事業「万葉公園・周辺地区まちづくり事業」の進捗に注視していくこと。
------	---------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(見直し)
------	---------

平成30年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3216	担当課等	観光課							
事務事業名	土肥会記念誌編さん事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	03	事業開始年度	平成 29 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P34 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれる にぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(1) 観光資源の拡充・ 整備	④ 歴史的・文化的資源 の発掘				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	土肥会が令和2年度に90周年の節目を迎えるのを踏まえ、記念誌の制作のため、編さん事業を進めていくもの。								
対象	土肥会								
内容	土肥会が令和2年度に90周年の節目を迎えるのを踏まえ、記念誌の制作のため、資料収集や基礎資料のデータ化を図る。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)	
コスト	事業費	200,000	200,000	100,000	
	人件費	242,767	244,266	247,219	
	非常勤職員等				
	人件費合計	242,767	244,266	247,219	
	総事業費	442,767	444,266	347,219	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	442,767	444,266	347,219	
財源合計	442,767	444,266	347,219		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
資料の収集等・調査		回		3	3
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)	対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 湯河原の郷土史を後世に継承していくためにも、町が実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5 資料の散逸を防ぐことができる
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5 資料の散逸を防ぎ、土肥会会員の減少に歯止めをかけ、湯河原の郷土史を伝えていくことにより、郷土愛を醸成していくことができる。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 受益の機会は均等と考えている。

平成30年度までの自己評価または改善点	事業主体である土肥会が積極的に行動しているため、町(事務局)の負担は減っている。
---------------------	--

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既の実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 土肥会に委託
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	資料の散逸を事前に防ぐため、会員をはじめ、後裔者からの情報提供、資料提供を呼び掛けていきたい。
令和2年度以降の方向性	令和2年度の土肥会90周年の記念誌発行にむけて、継続して準備を進めていきたい。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	引き続き、事業を継続していくこと。
------	----------	-------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3311	担当課等	観光課								
事務事業名	観光施設公衆便所維持管理事業										
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	03	事業開始年度	昭和	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P35 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(2) 観光施設の整備 充実、個性化	② 観光施設の活用				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	湯河原を訪れる観光客等が、公衆便所を利用した際に不快な思いをしないよう、清掃を行うもの。(令和元年度から「観光施設維持管理経費」に組入)								
対象	施設利用客								
内容	<ul style="list-style-type: none"> 公衆便所の維持管理修繕 公衆便所の清掃委託 								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	11,377,580	1,308,895			
	人件費	728,300	732,800			
	非常勤職員等					
	人件費合計	728,300	732,800	0		
	総事業費	12,105,880	2,041,695	0		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	12,105,880	2,041,695	0		
	財源合計	12,105,880	2,041,695	0		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
公衆便所の洋式化			箇所	0	1	
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)		対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	公の施設に設置している公衆便所は、町が整備する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	施設利用者が気持ちよく公衆便所を利用していただけることにより、施設のイメージアップを図ることができる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	明るく、きれいな公衆便所にする事で、防犯面で犯罪の抑止にもつがると思われる。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	施設利用者の一人ひとりが公衆便所を快適に利用していただけると考えている。
平成30年度までの自己評価または改善点	通常の維持管理に加え、台風12号、13号により被害を受けた湯河原海岸公衆便所、福浦港公衆便所の修繕を行った。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既の実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 町の観光施設のため、修繕等は町は実施するべきである。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	トイレ整備計画等策定に向けた基礎調査の結果をふまえて、どこのトイレを整備すべきなのか見極めていきたい。
令和2年度以降の方向性	快適な公衆便所を使用させていただくため、平成30年度以降も、観光施設公衆便所維持管理事業を継続したい。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	必要な事業であることから、継続して事業を実施すること。
------	----------	-----------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

今後の維持管理は管理経費により対応する。

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(見直し)	
------	---------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3451	担当課等	観光課							
事務事業名	独歩の湯運営事務経費									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	平成 12 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P35 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(2) 観光施設の整備・充実、個性化	② 観光施設の活用				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理制度による施設の運営 指定管理者との協議により、計画的な修繕をしていく。 								
対象	施設利用者								
内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設の維持管理修繕 								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	9,138,735	9,093,327	15,311,000		
	人件費	728,300	732,800	742,400		
	非常勤職員等					
	人件費合計	728,300	732,800	742,400		
	総事業費	9,867,035	9,826,127	16,053,400		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	9,867,035	9,826,127	16,053,400		
財源合計	9,867,035	9,826,127	16,053,400			
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
入場者数			人	63,444	61,330	6,350
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)		対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	公の施設である独歩の湯は、町が整備する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4	施設修繕を行うことにより、施設のイメージアップを図ることを目的としているが、老朽化がはげしいため修繕箇所が多い。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	単年度では修繕が追いつかないため、複数年での修繕計画が必要とされる
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	施設利用者の一人ひとりが快適に利用していただけると考えている。

平成30年度までの自己評価または改善点	官民連携事業「万葉公園・周辺地区まちづくり事業」の進捗に注視していくこと。
---------------------	---------------------------------------

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 指定管理導入済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	官民連携事業「万葉公園・周辺地区まちづくり事業」の進捗に注視していくこと。
令和2年度以降の方向性	平成30年度末で指定管理期間が終了となるが、31年度以降も指定管理制度は継続したい。また、その際は観光会館を含めた一体としての指定管理を行いたい。 官民連携事業「万葉公園・周辺地区まちづくり事業」の進捗に注視していくこと。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(見直し)	官民連携事業「万葉公園・周辺地区まちづくり事業」の進捗に注視していくこと。
------	---------	---------------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(見直し)	
------	---------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3433	担当課等	観光課							
事務事業名	こごめの湯運営事務経費									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	昭和 63 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P35 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(2) 観光施設の整備・充実、個性化	② 観光施設の活用				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理制度による施設の運営 指定管理者との協議により、計画的な修繕をしていく。 								
対象	施設利用者								
内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設の維持管理修繕 								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	6,455,820	4,907,954	5,975,000		
	人件費	728,300	732,800	742,400		
	常勤職員					
	非常勤職員等					
	人件費合計	728,300	732,800	742,400		
	総事業費	7,184,120	5,640,754	6,717,400		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	7,184,120	5,640,754	6,717,400		
	財源合計	7,184,120	5,640,754	6,717,400		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
入場者数			人	105,781	103,776	104,200
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)		対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	公の施設である独歩の湯は、町が整備する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4	施設修繕を行うことにより、施設のイメージアップを図ることを目的としているが、老朽化がはげしいため修繕箇所が多い。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	単年度では修繕が追いつかないため、複数年での修繕計画が必要とされる
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	施設利用者の一人ひとりが快適に利用していただけると考えている。
平成30年度までの自己評価または改善点	無料駐車券の配布、ファンゴ(温泉泥)施設の新たな旅行商品の開発を検討 大手旅行代理店(読売旅行)との連携による団体客の獲得 インターネット割引、JAF会員割引制度等を実施		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 指定管理導入済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	ファンゴ(温泉泥)施設の開設及び着地型旅行商品の造成を実施 夜間割引制度を実施 インターネット割引、JAF会員割引制度等を実施
令和2年度以降の方向性	快適に施設を使用していただくため、指定管理者と協議しながら、継続したい。 また、ファンゴ施設の開設により、旅行商品の開発等を検討

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	継続して事業を実施する必要があり、一層の観光客数の増につなげていくこと。
------	----------	--------------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3392	担当課等	観光課							
事務事業名	万葉公園管理事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	02	事業開始年度	昭和 46 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P35 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(2) 観光施設の整備・充実、個性化	② 観光施設の活用				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
		○							
目的	万葉公園を訪れる観光客に、清潔な公園としてイメージアップを図るため、年間を通して草取り、枝打ち、清掃等を実施するもの。 令和元年度から経常費へ移管								
対象	観光客								
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・公園内清掃の委託 ・倒木等撤去の委託 ・樹木等剪定管理の委託 								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	4,836,796	4,479,751			
	人件費	728,300	732,800			
	非常勤職員等					
	人件費合計	728,300	732,800	0		
	総事業費	5,565,096	5,212,551	0		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	5,565,096	5,212,551	0		
財源合計	5,565,096	5,212,551	0			
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
剪定回数			回	1	0	
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)		対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	公の施設である万葉公園は、町が整備する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	万葉公園を整備することにより、安全・安心をPRするとともにイメージアップを図ることができる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	維持管理を行うことにより、万葉公園のイメージアップを図ることを目的としている
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	万葉公園利用者の一人ひとりが均等に利用していただけていると考えている。
平成30年度までの自己評価または改善点	毎年度に公園内の草取り、枝打ち、清掃等を実施。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既の実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 園内清掃等を実施
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	公園内の草取り、枝打ち、清掃等を実施。 官民連携事業「万葉公園・周辺地区まちづくり事業」の進捗に注視していくこと。
令和2年度以降の方向性	万葉公園来場者が安心・安全に散策できるよう、修繕計画を立て、整備を継続しつつ、観光会館を含めた一体としての将来のあり方についての検討をしていく。 官民連携事業「万葉公園・周辺地区まちづくり事業」の進捗に注視していくこと。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(見直し)	官民連携事業「万葉公園・周辺地区まちづくり事業」の進捗に注視していくこと。
------	---------	---------------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(見直し)	
------	---------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3304	担当課等	観光課								
事務事業名	ハイキングコース維持管理事業										
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	03	事業開始年度	昭和	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P35 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(2) 観光施設の整備・充実、個性化	② 観光施設の活用				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	町内のハイキングコースの維持管理(草刈、指導標の整備等)を行うものです。令和元年度から「観光施設維持管理経費」に組入れのうえ、経常費に移管								
対象	ハイカー								
内容	<ul style="list-style-type: none"> ハイキングコースの修繕 ハイキングコースの草刈 								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	2,285,364	2,100,360			
	人件費	1,456,600	1,465,600			
	常勤職員					
	非常勤職員等					
	人件費合計	1,456,600	1,465,600	0		
	総事業費	3,741,964	3,565,960	0		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	3,741,964	3,565,960	0		
	財源合計	3,741,964	3,565,960	0		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
修繕箇所		維持管理に直接つながる	箇所	2	2	
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)		対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	公の施設であるハイキングコースは、町が整備する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	ハイキングコースを整備することにより、安全・安心をPRするとともにイメージアップを図ることができる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	単年度ではなく、複数年度での計画を立てることで、ハイキングコースの整備を充実できる。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	訪れてくれるハイカーが安全・安心にハイキングを楽しんでいただけたと考えている。
平成30年度までの自己評価または改善点	平成26年度に県補助を含め実施した「鎌倉幕府開運街道」を整備後、ハイキングコース内の指導標・案内板の維持・管理・修繕を行った。 また、トリプルパワースポットの設置により、新たなストーリー性を追加		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 各ハイキングコースごとに、委託
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	危険箇所等をチェックして、整備を行っていく。 未病対策や第4のパワースポットの発掘など、ストーリー性をもたせ、回遊していただくような魅力づくりをしていく。
令和2年度以降の方向性	安全・安心なハイキングコースを提供するため、引き続き、ハイキングコース維持管理事業を継続したい。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	ハイキングコースの整備(維持管理)は必要なことから、ハイカーの安全・安心を確保するため、事業を継続していくこと。
------	----------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

今後の維持管理は管理経費により対応する。

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(見直し)	
------	---------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3124	担当課等	観光課							
事務事業名	武者行列開催事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	03	事業開始年度	昭和 38 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P34 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(1) 観光資源の拡充・整備	④ 歴史的・文化的資源の発掘活用				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	史実に基づき、春の観光行事として定着している武者行列を実施								
対象	町民・観光客								
内容	4月第1日曜日に武者行列の実施 大人侍・子供侍の衣装製作								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	2,800,000	2,800,000	2,800,000		
	人件費	728,300	732,800	742,400		
	非常勤職員等					
	人件費合計	728,300	732,800	742,400		
	総事業費	3,528,300	3,532,800	3,542,400		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	3,528,300	3,532,800	3,542,400		
財源合計	3,528,300	3,532,800	3,542,400			
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
大人侍製作数			体	4	4	4
子供侍製作数			体	2	2	2
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)		対前年比3%の増	千人	3,309	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	湯河原の郷土史を後世に継承していくためにも、町が実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	郷土愛を育み、後世に伝える貴重な場面となっており、効果が得られている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	資料の散逸を防ぎ、土肥会会員の減少に歯止めをかけ、湯河原の郷土史を伝えていくことにより、郷土愛を醸成していくことができる。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	受益の機会は均等と考えている。
平成30年度までの自己評価または改善点	計画的に鎧侍の衣装制作を実施。トリプルパワースポットと頼朝の開運街道を結びストーリー性をもたせPR 土肥実平に因むマンガプロジェクト(大藏彌太郎監修)の実施により外国人・若年層に向けPR		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 土肥会に委託
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	引き続き、鎧侍の衣装製作を計画。土地の豪族、土肥実平と、湯河原の地から再興が始まった源頼朝にあやかり、湯河原を開運の地としてPRしていく。
令和2年度以降の方向性	引き続き、鎧侍の衣装製作を計画。トリプルパワースポットの設置コンセプトと土地の豪族、土肥実平と、湯河原の地から再興が始まった源頼朝にあやかり、湯河原を開運の地としてPRしていく。平成32年度の土肥会90周年に向けて、継続して準備を進めていきたい。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	引き続き、事業を継続していく必要がある。
------	----------	----------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3049	担当課等	観光課								
事務事業名	海水浴場運営事業										
予算科目コード	会計	01	款	06	項	01	目	03	事業開始年度	昭和	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P35 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(2) 観光施設の整備・充実・個性化	② 観光施設の活用				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	海水浴場を開設し、湯河原の夏の魅力をPRする。								
対象	観光客・町民								
内容	湯河原海水浴場の開設(平成30年7月14日～8月31日) 台風12号による甚大な被害に対する迅速な復旧及び安全情報の発信を行った。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)	
コスト	事業費	9,077,153	14,828,265	11,065,000	
	人件費	728,300	732,800	742,400	
	非常勤職員等				
	人件費合計	728,300	732,800	742,400	
	総事業費	9,805,453	15,561,065	11,807,400	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	9,805,453	15,561,065	11,807,400	
財源合計	9,805,453	15,561,065	11,807,400		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
海水浴場客数		人	114,400	53,600	80,000
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成27年度	平成28年度	目標値
観光入込数(日帰り・宿泊計)	対前年比3%の増	千人	3,634	3,647	3,756

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	湯河原海水浴場の安全・安心を確保するためにも、町が実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	湯河原海水浴場の安全・安心の確保されており、効果が得られていると考えている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	湯河原海水浴場の安全・安心が確保され、家族連れなども安心して楽しめる海水浴場となっている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	受益の機会は均等と考えている。
平成30年度までの自己評価または改善点	海水浴場内の休憩台や区域ロープの修繕等を実施。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 海水浴場の開設については、安全管理から町が実施したい。監視救助業務については委託済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	海水浴場施設の設置・撤去 海水浴場の監視救助業務 海水浴場の利用客の増に向けたイベントの充実を検討
令和2年度以降の方向性	夏の湯河原温泉の重要な観光施設として、今後も継続して、海水浴場の開設をしていきたい。海水浴場の利用客の増に向けたイベントの充実の検討

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	湯河原の夏の魅力をPRする上で、事業を継続していく必要がある。
------	----------	---------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3509	担当課等	観光課							
事務事業名	商店街振興事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	02	目	02	事業開始年度	平成 20 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P41 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	II 地域産業の振興	1 商業・サービス業	(2) 団体活動の活性化と人材育成	① 商工業関連団体間の提携・交流強化				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	地域商工業の活性化を図る。								
対象	町内商工業者								
内容	地域商工業の活性化を図るため、次の事業に助成金を交付する。 ・商店街連合会振興事業…商店街連合会が主催するイベント等。 ・地域商業活性化事業…地域商店街の活性化を目的とした商品券を発行。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
	事業費	10,108,297	10,489,532	9,370,000	
人件費	常勤職員	728,300	732,800	742,400	
	非常勤職員等				
	人件費合計	728,300	732,800	742,400	
総事業費	10,836,597	11,222,332	10,112,400		
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	10,836,597	11,222,332	10,112,400	
財源合計	10,836,597	11,222,332	10,112,400		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
商工会会員数	補助対象	人	831	831	850
補助団体数	補助実績	団体	9	4	5
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
イベント来場者数	地域産業の振興	人	16,100	13,500	15,000
参加店数	工業の振興	店	137	140	145

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	観光客誘致事業など観光振興の発展に資するほか、技術者の発掘や育成指導など工業振興に資するため町で行う必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	イベントには町内外の方が来場され、集客・消費拡大につながっている。 また、参加店の活性化が図られている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	産業、工業の地域振興につながっている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	受益の機会は均等である。
平成30年度までの自己評価または改善点		<ul style="list-style-type: none"> ・商品券発売日を平日と休日の2回に分けて実施 ・取扱店舗数の拡大 	

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 補助事業のため
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	特になし
令和2年度以降の方向性	地域商工業の活性化を図る趣旨から、引継ぎ助成したい。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	引続き、商工業の振興、活性化のため事業を実施していくこと。
------	----------	-------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3505	担当課等	観光課							
事務事業名	商工業振興事業補助金									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	02	目	02	事業開始年度	平成 17 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P41 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	II 地域産業の振興	1 商業・サービス業	(2) 団体活動の活性化と人材育成	① 商工業関連団体間の提携・交流強化				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	地域商工業の活性化を図る。								
対象	町内商工業者								
内容	地域商工業の活性化を図るため、次の事業に助成金を交付する。 ・産業祭等事業…地域産業の振興に寄与する産業祭。 ・商業振興事業…商店街連合会と協力し、商店の掘り起こしを図る。 ・工業振興事業…リフォームお助け隊事業等の工業の振興を展開する。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
	事業費	850,000	550,000	900,000	
人件費	常勤職員	728,300	732,800	742,400	
	非常勤職員等				
	人件費合計	728,300	732,800	742,400	
総事業費	1,578,300	1,282,800	1,642,400		
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	1,578,300	1,282,800	1,642,400	
財源合計	1,578,300	1,282,800	1,642,400		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
商工会会員数	補助対象	人	831	831	850
補助団体数	補助実績	団体	9	4	5
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
産業祭来場者数	地域産業の振興	人	中止	企画なし	3,000
リフォームお助け隊相談数	工業の振興	件	273	295	300

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	観光客誘致事業など観光振興の発展に資するほか、技術者の発掘や育成指導など工業振興に資するため町で行う必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	産業祭には町内外の方が来場され、集客・消費拡大につながっている。リフォームお助け隊事業は隊員の増強による事業の充実が図られている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	産業、工業の地域振興につながっている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	受益の機会は均等である。
平成30年度までの自己評価または改善点	「ふれあい広場産業祭」は、平成30年度は実施を見合わせ、令和元年6月2日(日)に桜木公園で開催した。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 補助事業のため
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	令和元年6月2日(日)桜木公園で実施済
令和2年度以降の方向性	桜木公園が開催場所として最良かを検証し引継ぎ助成したい。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	引続き、商工業の振興、活性化のため事業を実施していくこと。
------	----------	-------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3514	担当課等	観光課							
事務事業名	中小企業退職金共済掛金助成事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	02	目	02	事業開始年度	平成 2 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P40 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	II 地域産業の振興	1 商業・サービス業	(1) 商業基盤の整備	(2) 融資制度、利子補給の拡充				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	町内事業所の雇用の安定及び従業員の労働条件の向上を図る。								
対象	町内商工業者								
内容	退職金共済制度(中小企業退職金共済制度・特定退職金共済制度)に新規加入する事業所に対し、掛け金の一部を助成するもの。(掛け金の10%)								

2 実施結果

(単位 円)

区分	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)			
	事業費	754,400	693,200	764,000		
コスト	人件費	728,300	732,800	742,400		
	非常勤職員等					
	人件費合計	728,300	732,800	742,400		
総事業費	1,482,700	1,426,000	1,506,400			
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	1,482,700	1,426,000	1,506,400		
財源合計	1,482,700	1,426,000	1,506,400			
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値	
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値	
助成事業所数	中小企業事業所支援	件	36	33	35	

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	町内事業所の雇用の安定につながっている。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	町内事業所の安定につながっている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	産業、工業の地域振興につながっている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	受益の機会は均等である。
平成30年度までの自己評価または改善点	退職金共済制度に加入する事業所に対し、掛金の一部を助成することで町内事業所の雇用の安定化を図っている。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 助成事業のため
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	特になし
令和2年度以降の方向性	地域商工業の活性化を図る趣旨から、引継ぎ助成したい。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	引続き、商工業の振興、活性化のため事業を実施していくこと。
------	----------	-------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3525	担当課等	観光課							
事務事業名	商店街街路灯維持管理事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	02	目	02	事業開始年度	平成 27 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P40 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	II 地域産業の振興	1 商業・サービス業	(1) 商業基盤の整備	③ 歩道・街路灯、街路樹の整備				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	商店街の魅力を高めて集客力を向上させる。 令和元年度から「商工業振興事務経費」(経常費)組入れのうえ移管								
対象	町内商店街								
内容	商店街の街路灯については、平成27年度から順次町管理のLED防犯灯へ切り替えを行っている。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
	事業費	3,348,659	2,741,393		
コスト	人件費				
	常勤職員	728,300	732,800		
	非常勤職員等				
	人件費合計	728,300	732,800		0
	総事業費	4,076,959	3,474,193		0
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	4,076,959	3,474,193		0
	財源合計	4,076,959	3,474,193		0
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	商店街の魅力を高めるため必要である。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	集客力向上につながっている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	産業、工業の地域振興につながっている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	受益の機会は均等である。
平成30年度までの自己評価または改善点	平成27年度から順次、町管理のLED防犯灯への切替		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 町管理事業のため
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	元城堀商店会及び門川区会の街路灯が町に移管される予定
令和2年度以降の方向性	令和元年度の元本町通り会の街路灯移管によりLED化による事業は完了となるが、商店街灯の安定的な管理を行い、観光地としての街並みを確保し、地域商店街の活性化を図る趣旨からも、事業は引き続き実施したい。(令和2年度以降は経常費的事業)

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	引続き、商工業の振興、活性化のため事業を実施していくこと。
------	----------	-------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

令和元年度からは商工業振興事務経費で対応していく。

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(見直し)	
------	---------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3534	担当課等	観光課							
事務事業名	地域振興事業補助金									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	02	目	02	事業開始年度	平成 21 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P41 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	II 地域産業の振興	1 商業・サービス業	(2) 団体活動の活性化と人材育成	① 商工業関連団体間の提携・交流強化				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	商店街が行う事業のうち観光振興に特に寄与する事業に補助するもの。								
対象	地域商店街								
内容	次の事業等に対して補助を行う。 ・温泉場商店会が開催する「灯りの祭典」事業。温泉場商店会に加え、町観光課、湯河原温泉観光協会、湯河原町商工会、オマツリジャパンの参画による情報発信を行った。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
	事業費	800,000	800,000	800,000	
人件費	常勤職員	728,300	732,800	742,400	
	非常勤職員等				
	人件費合計	728,300	732,800	742,400	
総事業費	1,528,300	1,532,800	1,542,400		
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	1,528,300	1,532,800	1,542,400	
財源合計	1,528,300	1,532,800	1,542,400		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
商工会会員数	補助対象	人	831	831	850
補助団体数	補助実績	団体	9	4	5
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
灯りの祭典来場者数	地域振興	人	4,000	1,500	2,000
担々やきそばイベント出店数	地場産業の振興	件	17		

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	地場産業の振興や観光客誘致事業など観光振興の発展に資するため。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	商店街や商工会会員による新規イベントを開催し、集客、消費拡大を図っている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	各種事業を実施することにより、観光振興につながっている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	受益の機会は均等である。
平成30年度までの自己評価または改善点	「灯りの祭典」が湯河原の新しいイベントとして認知度が向上してきている。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	3	補助事業のため
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	町内外で開催されているイベントへの出店が減少している担々焼きそばの普及促進経費を、近年観光振興に特に寄与する「灯りの祭典」事業に充て、新たにカフェがオープンした美術館の庭園でも実施するなど事業の拡充を図る。	
令和2年度以降の方向性	地域商工業の活性化を図る趣旨から、引継ぎ助成したい。	

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(拡大)	マンネリ化している事業の見直しや集客力が増している事業を整理し、事業内容及び予算配分を検討すること。
------	--------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(拡大)	
------	--------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3538	担当課等	観光課							
事務事業名	創業支援事業補助金									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	02	目	02	事業開始年度	平成 28 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P41 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	III 勤労者対策の推進	1 雇用対策	(1) 就業の促進	⑤ 若年者、女性等による創業の支援				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	創業セミナーを開催することにより、起業を目指す方を掘り起し、町内における起業を促進し、起業の場として、町内の空き店舗の利用促進を図る。								
対象	起業を目指す方								
内容	商工会と連携し、新たに起業を目指している方を応援するため、税理士・中小企業診断士などを講師に迎え、経営・財務・人材育成・販路開拓など創業に必要な基礎知識について習得するセミナーを開催する(1/2補助)。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
	事業費	100,000	100,000	100,000	
人件費	常勤職員	728,300	732,800	742,400	
	非常勤職員等				
	人件費合計	728,300	732,800	742,400	
総事業費	828,300	832,800	842,400		
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	828,300	832,800	842,400	
財源合計	828,300	832,800	842,400		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
セミナー開催数	基礎知識の提供	回	3	3	3
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	地場産業の振興や発展に資するため。
効率性	投入した費用に見合った効果が得られているか	5	起業促進へとつながっている。
類似性	他事業との類似はないか		
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	各種セミナーを実施することにより、起業促進へとつながっている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	受益の機会は均等である。
平成30年度までの自己評価または改善点	受講者の追跡調査を実施し、効果測定を行う必要性を商工会と検討する。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	3	補助事業のため
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	セミナー受講者に対して効果測定実施予定	
令和2年度以降の方向性	受講者については創業予定者及び既経営者であったが、特に創業予定者については追跡調査を実施し、今後のセミナーの参考等にしたい。また、空き店舗の利用促進を図る趣旨から、引き続き助成したい。	

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	引き続き、起業を目指している方を応援するため、事業を実施すること。
------	----------	-----------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3542	担当課等	観光課							
事務事業名	「made in ゆがわら」認定事業									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	02	目	02	事業開始年度	平成 28 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P34 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	I 基幹産業の振興	1 観光	(1) 観光資源の拡充・整備	③ 名物料理・商品の開拓				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
			○						
目的	湯河原町の地域資源を活用し、湯河原ブランドの確立により町のイメージアップと産業振興を図り、町経済の活性化を目指す。								
対象	地域事業者 観光客								
内容	「made in ゆがわら」としてブランド認定するための委員会の運営。 ・選定基準の策定 ・認定商品の公募 ・小田原短期大学生と協働によるモニタリングの実施(産・官・学) ・認定商品のお披露目、ふるまいイベントの実施								

2 実施結果

(単位 円)

区分	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
	事業費	195,754	198,056	733,000	
人件費	常勤職員	728,300	732,800	742,400	
	非常勤職員等				
	人件費合計	728,300	732,800	742,400	
総事業費	924,054	930,856	1,475,400		
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	924,054	930,856	1,475,400	
財源合計	924,054	930,856	1,475,400		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成28年度	平成29年度	目標値
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成28年度	平成29年度	目標値

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	湯河原ブランドの確立により町のイメージアップを図るため必要である。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	町内外の方への消費拡大につながる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	湯河原町の産業振興、活性化を目指す。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	受益の機会は均等である。
平成30年度までの自己評価または改善点	「湯河原らしさ」について、観光アドバイザー政所利子先生のアドバイスをいただきながら議論した。平成30年度に7品目認定。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	1 本来であれば商工会が主体となって行う事業であると考える。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	令和元年度中に更に認定品目を増やし、令和2年の「梅の宴」で観光客へのPRや販路の確保、拡大を図る。
令和2年度以降の方向性	今後の、販路の確保・拡大・PRなどについては商工会が主体となって事業を推進してもらおう。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	引き続き、「made in ゆがわら」の確立に向け、観光客へのPRや販路の確保、拡大を図る。
------	----------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	3556	担当課等	観光課							
事務事業名	駅周辺活性化プロジェクト事業補助金									
予算科目コード	会計	01	款	06	項	02	目	02	事業開始年度	平成 28 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P41 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	1 魅力と活力にあふれるにぎわいのあるまちづくり	II 地域産業の振興	1 商業・サービス業	(2) 団体活動の活性化と人材育成	① 商工業関連団体間の提携・交流強化				
関連する個別計画	湯河原町観光立町推進計画								
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	地域商工業の活性化を図る。								
対象	町内商工業者								
内容	地域商工業の活性化を図るため、次の事業に助成金を交付する。 駅周辺が一体化となって活性化し、駅周辺の賑わいの創出を図る必要があることから、ぶらんちを開催している駅前通り明店街へ補助金を交付するもの。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
	事業費	800,000	800,000	700,000	
人件費	常勤職員	728,300	732,800	742,400	
	非常勤職員等				
	人件費合計	728,300	732,800	742,400	
総事業費	1,528,300	1,532,800	1,442,400		
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	1,528,300	1,532,800	1,442,400	
財源合計	1,528,300	1,532,800	1,442,400		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
商工会会員数	補助対象	人	831	831	850
補助団体数	補助実績	団体	9	4	5
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
ぶらんち来場者数	地域産業の振興	人	12,000	12,000	13,500

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	観光客誘致事業など観光振興の発展に資するほか、技術者の発掘や育成指導など工業振興に資するため町で行う必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	イベントには町内外の方が来場され、集客・消費拡大につながっている。 また、参加店の活性化が図られている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	産業、工業の地域振興につながっている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	受益の機会均等である。

平成30年度までの自己評価または改善点	「ぶらん市」の町民や観光客への認知度が向上、SNSによる情報発信
---------------------	----------------------------------

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	3	補助事業のため
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	平成30年度の実証実験として、駅周辺の活性化を図るため、梅の宴の入園券をお持ちのお客様に対し駅周辺の商店街で飲食や買い物をした際、200円のキャッシュバックをする事業を実施する。	
令和2年度以降の方向性	地域商工業の活性化を図る趣旨から、引継ぎ助成したい。	

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	引続き、商工業の振興、活性化のため事業を実施していくこと。
------	----------	-------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--